

第81回 火力専門委員会 溶接分科会 議事録

I. 日 時：2018年11月7日（水） 13時30分～17時20分

II. 場 所：東京大学 工学部 三号館 424 会議室

III. 出席者：青山(東大)、鈴木(MHPS)、倉富(東電 FP)、原田(東芝)、長谷川(発電技検)、
逢澤(MHPS 日立)、幅野(IHI)、飯島(日溶協)、大橋(中電)、堀(関電)、高内(神戸製鋼)

欠 席：水谷(東工大)、飯田(東電 HP)

代理出席：なし

オブザーバー：なし

事務局：原

IV. 配付資料

81-1 第80回溶接分科会議事録(案)

81-2 溶接分科会委員名簿

81-3 第85回火力専門委員会報告

81-4 第87回発電設備規格委員会議事次第

81-5 火力専門委員会書面投票 No.77(第Ⅶ章 溶接施工法・溶接技量改訂提案)結果報告

81-6 火力専門委員会書面投票 No.78(規格策定の手引き(ご意見伺い))結果報告

81-7 火力専門委員会書面投票 No.79(正誤表リスト作成内規(ご意見伺い))結果報告

81-8 規格委員会書面投票 No.410(第Ⅱ章 材料 改訂提案)結果報告

81-／ 用語集(映写)

81-9 規格委員会書面投票 No.399(第Ⅵ章)の意見対応と意見対応を反映した修正案

81-10 火力専門委員会書面投票 No.77(第Ⅶ章)の意見対応

81-11 審議履歴表

81-12 材料分科会の質問に対する回答案

V. 議事

1. 前回議事録確認 [資料 81-1]

前回議事録(案)について確認を行い、議事録(案)が承認された。

2. 分科会委員・役員の承認 [資料 81-2]

退任委員、新任委員候補はなし。再任委員候補として飯島委員を次回火力専門委員会へ推薦することが、出席委員全員の賛成により承認された。

3. 報告事項

(1)火力専門委員会報告 [資料 80-3]

9月14日開催の第85回火力専門委員会の主要項目が報告された。

○火力専門委員会委員、各分科会委員の承認

○第80回溶接分科会(7/23)の報告

・第Ⅵ章非破壊検査の規格委員会書面投票の意見対応の状況。現在、2回目のコメン

トへの回答案を準備中であることを報告。

- ・ 第Ⅶ章溶接施工法・溶接技量の改訂案を火力専門委員会に提案することの承認。

○ 審議結果報告

- ・ 火力専門委員会書面投票 No.75（第Ⅱ章材料 No.73 の意見対応による修正案）の書面投票意見対応と意見対応を反映した修正案・・・修正案が承認された。
- ・ 火力専門委員会書面投票 No.76（第Ⅲ章 ボイラの改訂提案）の書面投票意見対応
修正内容には技術的な修正を含むことから、修正案について書面投票を行うことが承認された。
- ・ 規格委員会書面投票 No.399（201× 年版改訂提案 第Ⅵ章非破壊検査）の書面投票意見対応
書面投票の意見対応中であることが報告された。
- ・ 発電用火力設備規格詳細規定（201× 年版）第Ⅶ章 溶接施工法・溶接技量の改訂提案・・・火力専門委員会の書面投票を行うことが承認された。
- ・ 発電用火力設備規格での ALLOY263 の規格化提案
ALLOY263 の規格化を進めることと、本材料は許容引張応力値が未策定であることから、材料専門委員会に許容引張応力値等の策定の依頼をすることが、承認された。

(2) 規格委員会報告

[資料 81-4]

9 月 20 日開催の第 87 回発電用設備規格委員会の主要項目が報告された。

- ・ 火力専門委員会(9/14 開催) 報告
- ・ 発電用火力設備規格詳細規定Ⅲ章 201× 年改訂が提案され、規格委員会の書面投票の実施が承認された。

(3) 火力専門委員会書面投票 No.77(9/20～10/22) 結果報告

[資料 81-5]

発電用火力設備規格 201× 年版 詳細規定 第Ⅶ章 溶接施工法・溶接技量 改訂案の火力専門委員会書面投票の結果が報告された。賛成票が 2／3 以上あり、反対票がなかったため可決となった。現在、意見対応中。

(4) 火力専門委員会書面投票 No.78(9/20～10/22) 結果報告

[資料 81-6]

火力専門委員会書面投票 No.78（規格策定の手引き(ご意見伺い)）の実施結果が報告された。ご意見は 3 件。表の「可決」は、「投票終了」の間違い。

(5) 火力専門委員会書面投票 No.79(9/20～10/22) 結果報告

[資料 81-7]

火力専門委員会書面投票 No.79（正誤表リスト作成内規(ご意見伺い)）の実施結果が報告された。ご意見はなし。表の「可決」は、「投票終了」の間違い。

(6) 規格委員会書面投票 No.410(9/20～10/22) 結果報告

[資料 81-8]

発電用火力設備規格 201× 年版 詳細規定 第Ⅱ章材料の改訂案の規格委員会書面投票の結果が報告された。賛成票が 2／3 以上あり、反対票がなかったため可決となった。現在、意見対応中。

4. 審議事項

(1)用語集の確認

新たな追記・変更箇所はなし。

(2)規格委員会書面投票 No.399 の書面投票意見と対応案について [資料 81-9]

鈴木副主査が、宮口委員の再対応の確認結果の内、再度の回答が必要な項目について説明し、回答の方針を審議した。確認事項、コメントは以下のとおり。本日の審議内容を基に、鈴木副主査が回答案を作成する。

○意見 No.2

Appendix を取り込まない理由を規格ユーザーに説明する必要はないと判断するので、同様な内容を回答する。

○意見 No.3

主なコメントは、以下のとおり。

- ・ JIS2305 の検査員でも、JSME 規格に定められたとおり検査・判定などをすれば問題は無い。ヒューマンエラー的な話は、規格の内容とは別の話である。
- ・ 規格全体で見れば、過不足が無いと判断できる。
- ・ 火技解釈においては、米国や欧州の検査員資格も認めているが、手順が問題になった事例は承知しておらず、実績があると判断出来る。
- ・ 次回の改訂における検討課題と位置付けて回答するのも一案。

○意見 No.7

コメント等は以下のとおり。

(1) 現規格案で問題ないことを補遺に追記することを回答するのが良い。

(2) ・ 各章の規格の考え方の統一の必要性、その他関連事項について、構造分科会に相談する。

- ・ 次回改訂時に整理・検討する旨回答することのも一つの方法。
- ・ 意見者の第三者認証と自己認証の認証レベルの認識に疑問あり。

(3) VT 規格の資格認証は要求していないことを明確な形で回答する。

○意見 No.20

- ・ 拝承する。

- ・ 規格の修正は、意見者の「幾何学的不鮮明度 U_g と移動による不鮮明度 U_M の各々が T-274.2 による制限値を超えないこと。」を活用する。

■今後の予定

メールベースで連絡を取りながら、作業を進める。

- 次回の火力専門委員会、規格委員会で修正案の承認手続きを提案することは、スケジュール的に難しいので、次々回の委員会（2月下旬～3月中旬）で提案することを目標にする。
- 修正内容には技術的な内容を含むので、意見対応による修正案について書面投票の実施を提案する。

(3) 発電用火力設備規格 201X 年版 第Ⅶ章 溶接施工法・溶接技量の書面投票意見対応

[資料 81-10]

資料に基づき、鈴木副主査が意見対応案を説明し審議を行った。
確認事項、コメントは以下のとおり。

○ 意見 No.6

対応案の表現を見直す。

「接合界面に対して直角のものを、接合界面に沿って3つ以上採取」

→ 「接合界面に対し直交するものを、3つ以上採取」

■ 今後の予定

メールベースで連絡を取りながら、作業を進める。

- 次回の火力専門委員会（11/26）で修正案を編集上及び軽微な技術的修正として提案する。
- 意見対応案確定後（三役が最終確認）、意見者に意見対応案の確認依頼を行う。
- 意見対応案の確認依頼に並行して、火力専門委員会提案用の新旧対比表の準備作業を行う。
 - ・ 新旧対比表は、意見対応による修正箇所を改訂前後とも青字・下線とする。また改訂内容を追記する場合は、追記箇所を青字とする。（第Ⅵ章と同様）
 - ・ 11 月 19 日夕方までに修正した新旧対比表を以下のフォルダに保存する。

溶接分科会/05 201X 年版提案資料/第Ⅶ章/02_火専書面投票意見対応による修正案

- ・ 11 月 20 日に事務局が新旧対比表を合体 PDF 化して、各委員に確認依頼。資料は、22 日（金）夕方に印刷。26 日提案。

(4) 材料分科会からの質問に対する回答案

[資料 81-12]

鈴木副主査が材料分科会からの質問に対する回答案を説明し、回答案どおりで良いことが確認された。

Ⅵ. 次回開催予定

- ・ 日時：2018 年 2 月 14 日（木） 13 時 30 分～17 時（2 月 15 日から変更）
- ・ 場所：東京大学工学部（本郷）

以 上